

日南地域プロジェクト(近海かつお一本釣り・省人化タイプ) もうかる漁業創設支援事業実施結果報告

【事業実施者:日南市漁業協同組合】

実証期間:平成23年4月1日～平成26年3月31日

日南・南郷地区の近海かつお一本釣り漁業の経営の安手的持続を図るため、従前の70トン型から省人化タイプの19トン型に転換し、初期投資の低減、運航コストの削減等により生産コストの削減を図り、併せて短期航海を基本とし、「瀬付き」と呼ばれる比較的大型の脂の乗ったカツオを主対象とする高鮮度重視型操業へ転換し、単価の向上と水揚げ金額の向上を図ることを骨子とする収益性改善の実証事業を行った。

実証項目

【生産に関する事項】

①低コスト生産体制への移行
・船体の小型化による初期投資の低減、運航コストの削減

・半自動釣機導入による省人化

②漁獲物の高品質化

③快適で安全な就労環境の確保

【流通・販売に関する事項】

・輸送コストの削減

・ブランド品認証による付加価値向上、販路拡大、消費拡大

実証結果

【生産に関する事項】

①造船所からの聞き取りによれると、本事業を開始した平成23年当時の70トン型かつお一本釣り漁船の建造費は約4億円、一方、19トン型省人化タイプの改革型かつお一本釣り漁船である実証船の建造費は161百万円であり、70トン型から19トン型に転換することにより初期投資の大幅な削減が図られた。また、運航コストの主要な要素を占める人件費と燃油費は、従前の70トン型かつお一本釣り漁船では乗組員18名、燃油消費量498kl/年であるのに対して、実証船のそれは10名、266.4kl/年(3カ年平均)であった。70トン型から19トン型改革船に転換することにより運航経費の大幅な削減が可能であることを示唆している。

・半自動釣機2基導入によって、同海域で省エネ化タイプの改革型漁船を導入して実証事業を行っている実証船に比し1名少ない10名体制で支障なく操業を行った。

②漁獲物の高品質化に関して、「瀬付き群」を主対象とする短期航海(平成23年度3.29日/航海、平成24年度3.76日/航海、平成25年度3.32日/航海)操業を行うとともに冷水装置3.7kw2基、5.5kw2基と海水殺菌装置を効果的に使用し滅菌海水による初期冷却強化及び保冷を行った結果、実証船の販売価格は平成23年度367円/kg、平成24年度361円/kg、平成25年度379円/kgで、実証船と同様水域で操業した70トン型当業船(3隻平均)のそれはそれぞれ、304円/kg、332円/kg、351円/kgで、当該手法による销售价格向上の可能性を示唆している。

③本事業実施に当たり、日本人乗組員の所得の改善を図ったほか、船員室等の通路高を約170cmにするとともに寝台出入り口の拡大を図った。また、小型漁船救急支援連絡装置を導入し船員の安全性の向上を図った。

【流通・販売に関する事項】

宮崎卸売市場出荷に当たり4業者で一番安価な見積りを提示した業者を選定することにより輸送経費の削減を図った。

「瀬付き」高鮮度カツオ製品の宮崎県水産物ブランド認証に向け、当該製品の差別化を図るべく、当該製品の近赤外分光分析計に脂質測定を行った。

収支の状況について

実証船の水揚げ金額は、初年度109百万円、第2年度91百万円、第3年度92百万円で、いずれの年度も改革計画の目標値(141～142百万円)を大幅に下回った。他方、事業に要した経費は、初年度233百万円、第2年度186百万円、第3年度163百万円で、その結果収支は初年度△123百万円、第2年度△96百万円、第3年度△71百万円であった。

償却前利益は、初年度△28百万円、第2年度は△46百万円、第3年度は△45百万円で改革計画の償却前利益の目標値(初年度8百万円、第2年度11百万円、第3年度11百万円)何れの年度も改革計画の目標値を大幅に下回った。その要因の一つとして燃油価格の高騰があげられる。加えて、短期航海を基本として「瀬付き」カツオを主対象として高鮮度重視型操業へ転換による単価の向上は一定の効果を上げたものの、さらなる短期航海の実現、漁獲量及び水揚げ金額の向上を図るため漁場探索及び漁場選択に改善すべきことがあることを示唆している。